

「ハノイ国家大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学法学部 2年 新城拓海

異文化に対して寛容であるべきとは頭の中で理解していたつもりでしたが、実際に他国の文化に接した際に寛容でいられるかという点については正直なところ自信がありませんでした。この不安を乗り越えようと決意してこのプログラムに応募したのが当初の動機です。海外の言語や文化を学び、またそれを通して日本について再発見をするという今回のプログラム趣旨は、まさにそうした私の思いを達成するのに最適だったと考えております。

何よりもまず驚いたのは交通量の多さでした。車の多い日本とは異なり、ベトナムではバイクが主に使用されていました。そのため必然的に交通量が増え、道路を横断するにも非常に困難を極めました。信号がないため、車やバイクの間を縫って進んでいくこととなります。初めは、ただただ恐怖しか感じませんでしたが、ふと、ベトナムの交通はある意味強い信頼関係の上に成り立っているのではないのかと考えるようになりました。車やバイクが自分をよけてくれると信じて歩かなければならないからです。相手を信じていなければとても道路を横断することなどできません。それ以前は、ただただベトナムの道路は渡りにくいとか考えていませんでしたが、このように考えることで寛容になれたと思いました。

現地でのベトナム語の学習や学生との交流も非常に有意義なものでした。相手の年齢や社会的地位によってその人の呼称を使い分けるといったベトナム語の特徴は、上下関係を大切にするというベトナムの文化が垣間見られ、実際にお世話になる先生にはどのように挨拶をすべきであるのかということ学ぶことができました。さらに、この学習を通して、日本語を使用している私たちも、知らず知らずのうちに相手によって言葉づかい変えているのだと再認識することができました。ベトナムで日本語を学ぶ学生たちの勉強のサポートもさせていただきましたが、彼らの勉学に対する熱意は日本の大学生のそれ以上だと率直に感じましたし、両国の学生同士で行われたプレゼンテーションでも、日本について深く知ろうという熱い思いがひしひしと伝わってきました。

このプログラムを通じて、もっとたくさんの異文化に触れてみたいと強く思うようになりました。今現在交換留学を考えておりますが、その留学先も、これまで触れたことの無い文化圏の国を選ぼうと考えています。将来の進路の希望は国際感覚の豊かさが求められる外交官なので、このプロジェクトで得た経験をもとに、これからも様々な国を訪れたいと思います。